



新収蔵庫棟「コレクションナリウム」

10年の試行と検討から作られた新収蔵庫棟 ひとはくの財産を共有し、まちにひらく

ひとはく開館30周年の節目に新しい収蔵庫棟、通称「コレクションナリウム」が完成した。ひとはくには、標本・資料の性質に合わせて6つの収蔵施設(生物系、地学系など)があるが、近年は標本・資料の収蔵数増加による保管場所の不足が問題となっていた。増え続ける標本・資料の適切な保管のためにも、この新たな収蔵庫棟の設置は待ちに待ったものだ。しかし期待されている機能は、それだけではない。市民自らが標本・資料を使うための仕組みや、既存施設・公園と一体的利用が可能となる空間設計など、これまでにない『市民にひらかれた収蔵庫』の実現が目指されている。

■10年の試行と検討から作られた新収蔵庫棟

ひとはくは20周年時に、標本・資料の公開と生涯学習での活用を中核事業とすべく、本館2階「魅せる収蔵庫トライアル」と移動博物館車「ゆめはく」を整備しました。この活動の延長として2018年に「ひょうご五国の宝箱 新収蔵庫棟基本構想」を策定し、コンセプトを「新たな好奇心を発見する場所」としました。構想では従来の収蔵庫のイメージを発展させる「出会う」「分かち合う」「深める」といった姿が提案さ

れ、この度の外部空間と連続し、標本・資料がまちからも見えるコレクションナリウムの建設に至りました。その後、基本設計などを経て、2021年4月に工事着工、2022年3月完成、そして2022年10月、開館の運びとなります。

■博物館活動の屋台骨は「標本・資料」の保管と展示

標本・資料収集と保管、展示とそれら資料の調査研究は博物館活動の土台となる部分です。そして、開

館時約22万点だった標本・資料数は、この30年で約10倍の200万点を数えるまでになりました。ひとはくが開館以来収集してきた資料は、30年という時間の厚みを持ったエビデンス(根拠となる)データです。学術分野における様々な仮説や理論を支える証拠として、疑義や問題が生じた際にすぐ参照できるよう整理しておく必要があります。また、標本・資料は博物館の種々の展示やアウトリーチ事業等に使用されるとともに、兵庫県や県内各市町、環境省のレッドリスト策定や生物多様性戦略の策定、各種自然環境保全に関する提言やアドバイスにも活用されています。これら標本資料を出来るだけ損なわず、今後とも継続した収集活動を行い、より厚みを持ったコレク

ションとして後々の世代に手渡すことにより、エビデンスに基づく我が国固有の自然及び生物多様性保全戦略の適切な策定が可能になります。

実物資料をしっかりと整理した形で後世の世代に手渡す一方で、資料デジタル化により広く現在を生きる人々に資料データへのアクセスをひらくことは、現代の博物館に課せられた使命といえます。新収蔵庫棟は、実物資料を長期にわたって保管する機能と、デジタル化した資料にアクセス可能な環境を両方備える予定です。

新収蔵庫棟でより多くの人々が博物館資料に触れ、それらを活用する方法を知り、実際に利用することで、より一層、ひょうごの自然環境への理解を深めることが期待されます(図1 イメージ図)。



図1



図2

新収蔵庫の役割や機能

コーナー名	デザイン仕様	役割・機能
建物全体	<ul style="list-style-type: none"> ○既存の「エントランスホール」、「恐竜ラボ」などを一体的に利用した「出会い」の空間としての役割 ○標本・資料整備の実績と自然史標本の重要性について解説し、本館への興味と関心を高める博物館のイントロダクションの役割 	
1F 展示ギャラリー(図2)	<ul style="list-style-type: none"> ○ガラス張りの外壁(3面) ○建物内外から見える「ひょうご5国の自然のつながりを感じられる」展示 ○ガイダンス動画のスクリーン投影 	<ul style="list-style-type: none"> ○博物館へやってきた高揚感、非日常感を演出し、「博物館のあるまち」としてフラワータウンの魅力向上と発展につなげる
1F コレクションギャラリー	<ul style="list-style-type: none"> ○恒温恒湿環境の収蔵庫(原則として鳥類や哺乳類の本剥製を収蔵) ○ワークルーム(実習/講義室) ○植物標本画像DB「オンライン植物収蔵庫」公開 ○植物標本庫解説 動画のスクリーン投影 	<ul style="list-style-type: none"> ○博物館へやってきた高揚感、非日常感を演出し、「博物館のあるまち」としてフラワータウンの魅力向上と発展につなげる
2F コレクションルーム	<ul style="list-style-type: none"> ○植物標本収蔵庫 	<ul style="list-style-type: none"> ○通常非公開だが調査研究目的の利用は可能(要予約)。他にも年数回収蔵庫ツアーで公開。